淀川愛好会 YODORIC NEWS

No. 106　2024 年 6 月発行

〈 社会人の窓　26 〉

淀川の自然環境の復元　― 鵜殿ヨシ原編 ―

副会長　綾 史郎

大阪府下の生物多様性レッドスポット ランクＡとして淀川沿いの鵜殿、ワンド群（城北、庭窪、楠葉など）、汽水域の３か所が上げられている。大阪工業大学に奉職した 1992 年からこれらの地区における自然再生や地区周辺における開発行為の自然環境に及ぼす影響の軽減を目的として調査・研究に通い、退職した今も離れられず、晴澱雨読、月に 10 日以上通う研究サイトである。今回は鵜殿ヨシ原の再生について記したい。

淀川右岸 32 ㎞付近にある寄り州、鵜殿は様々な動植物が生息するヨシ原が中心の湿地生態系を構成し、ツバメの塒（ねぐら）としても著名であり、また、雅楽の篳篥のリードである蘆舌（ろぜつ）の材料として用いられているヨシのほとんど日本唯一の産地としても知られており、約 3000 年続いている府下最大約 75ha のヨシ原である。河川改修工事の影響による淀川本川の水位低下は 1920 年代より始まり、ヨシ原は乾燥化が進むとともに洪水攪乱を受ける機会も減少した。1950 年代には入会権を有する地元市民により試験的な雑草駆除やヨシ原焼が始まったものの中断され、1970 年代後半からは高槻市民、高槻市などを中心に全国からの支援が加わって再開され、現在まで続いている。1990 年代後半には河川管理者により淀川本川の水をポンプで揚水、通水する導水事業が開始され、2004 年頃には水路延長約 2500m が完成し、揚水ポンプ２台が稼働している。河川環境の整備を河川事業の目的の一つとする河川法改正が行われた 1997 年以降はヨシ原を淀川本川水位に近づけるため、ヨシ原でもある高水敷を５～６ｍ切下げてヨシを移植する切下げ事業も開始され、現在約 10ha が完成している。これらの事業は一時的には成果を得、ヨシの衰退も止まり、生育面積も増えた。しかし、近年、コロナ禍や降雨によるヨシ原焼の中断、土壌水分が必ずしも適切でなかったことによるカナムグラ、ヤブカラシ、ゴキヅル、クズ、アレチウリなどのツル性植物やセイタカアワダチソウ、オオブタクサの繁茂、切下げ地におけるシルトの堆積などによる植生の変化なども見られるようになり、ヨシ原の衰退が目立ってきた。

2021 年の冬には篳篥用のヨシが一本も取れない事態となり、雅楽関係者による組織的なツル草抜きによる篳篥用ヨシ原の再生事業が 2022 年春より始まり、現在、３年目である。2023 年度にはわずか 0.8ha のヨシ原に合計 45 日、延べ 577 人がこの作業に従事したが、草丈４～５ｍ、直径 11～12 ㎜の茎の固い篳篥用の陸ヨシが再生されているのみならず、湿性植物やオオヨシキリ、ツバメも回帰し、生態系としても再生した。

鵜殿ヨシ原の衰退を防ぎ、再生しようと、これまで多くの努力、労力、資金、時間が投じられたが、再生されたのは極わずかであり、大部分は依然として衰退が進行している。自然再生という言葉はきれいであるが、鵜殿の事例はそれが容易ではないことを示している。努力、労力、資金がいつまで、どれだけ必要なのだろうか？再生が必要となる事態を防ぐことも重要である。

（大阪工業大学名誉教授）

甦った篳篥用ヨシ原（23 年 9 月）

カナムグラに覆われたヨシ原（23 年 11 月）

会員の近況

綾史郎氏が河川功労者表彰を受賞

６月４日（火）、本会副会長の綾史郎氏が日本河川協会定時総会において、令和６年度河川功労者表彰を受けられました。まことにおめでとうございます。

イベント報告

大川クリーン活動 ＆ 川で学び・つながる

4 月 28 日（日）10 時から 15 時に大阪ふれあいの水辺付近にて大川クリーン活動 ＆ 川で学び・つながるが開催されました。

クリーン活動ではふれあいの水辺の対岸に集合し、新桜宮橋と源八橋の二手に分かれ１時間ほど作業しました。草むらや橋の溝などを中心に探索し、ゴミ袋に集めるとかなりの量を回収することができました。なかでも多かったのはタバコの吸い殻やプラスチックゴミでしたが、段ボールなどの家庭ごみなども捨てられていました。

クリーン活動を終え大阪ふれあいの水辺で河合先生の指導による生物調査を行いました。投網を行った際に取れたのは絶滅危惧種のイシガイやササノハガイでした。エコシビル部はＥボート体験をサポートしました。（原之村彗文）

大川クリーン活動　集合写真

外来魚駆除釣り大会 in 淀川　2024

外来魚釣り受付

５月 11 日（土）に淀川の城北ワンド群にて外来魚駆除釣り大会が開催されました。天候も快晴で気温も高く仲夏のような日でした。約 150 人の方に参加していただきました。中には小さなお子様を連れた家族も参加しており、とても楽しんでいました。今回の外来魚釣りでは外来魚のオオクチバスやブルーギル、ミシシッピアカミミガメなどがたくさん釣れました。また、アオダイショウなどの珍しい生物も発見されました。しかし、城北ワンドに生息しているはずの在来種のイタセンパラは確認できませんでした。

一般参加者に加えて、摂南大学の石田ゼミ生やＰＢＬプロジェクトの学生、大阪工業大学の学生も参加し、大量の外来魚を釣り上げたため、外来魚の駆除にかなり貢献できたと思います。（原之村彗文）

第６回　琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪　～災害と舟運～

５月 18 日（土）、大阪工業大学梅田キャンパスで第６回琵琶湖･淀川･大阪湾流域圏シンポジウムが開催されました。ポスターセッションの後、澤井健二実行委員長と川野常夫摂南大学副学長の挨拶に引き続いて、大阪歴史博物館館長、大澤研一氏による基調講演「行き交う船がつなぐもの」がありました。船の紹介や歴史を初めとした内容で、19 世紀初頭では三十石船が伏見～大坂間を現代に直すと 3600 円程で運航していたそうです。また、大坂とその周辺を結ぶ桶船は、大坂で回収したし尿を農村に運んで肥料として活用し、農作物を大坂などに届けていました。

このように船が交通の面だけでなく食文化の面でも市民の生活を支えていたことも、昔の大坂が水の都と呼ばれていた理由の一つなのかなと感じました。

その後、大阪水上バス株式会社の中田貴巳様の基調講演「水上バスと舟運」がありました。内容としては、観光船の現場長や小型船の船長、各船舶の営業商品開発といった業務の紹介と自己紹介ののち大阪水上バスの紹介が行われました。また、今後の計画として大阪・関西万博に向けた淀川浪漫紀行や社会実験クルーズなどの活動の紹介が行われました。

２つの基調講演が終わった後は、総合討論が行われました。防災船着き場や淀川大堰閘門に関し話題提供が行われ、講演者や参加者たちにより、災害時における船の活用について討論が行われました。（中林依吹）

シンポジウムの様子

クリーンリバー寝屋川作戦

５月 26 日(日)に寝屋川せせらぎ公園と幸町公園にてクリーンリバー寝屋川作戦が行われました。昨年に引き続き規模を縮小して実施しました。

私たちが担当した幸町公園では役所の方たちが草刈班、エコシビル部、石田ゼミ、一般参加者がゴミ回収班に分かれて川へ降りて作業しました。草は生い茂り、回収しづらい場所にゴミがあることが多く、ハードワークとなりました。ゴミの種類も多く、主にペットボトルなどのプラスチックごみやアルミ缶、割れたビン、陶器などの多くのゴミを拾いました。(原之村彗文)

クリーンリバー寝屋川作戦　開会式の様子

イベント案内

巨椋池流域見聞バスツアー

淀川中流域の桂川、宇治川、木津川の三川が合流する付近にあった巨椋池周辺を見聞するバスツアーです。

秀吉の時代には巨椋池を改修して伏見港を整備し、その後長らくは漁業も盛んでした。対岸の伏見が港としての繁栄を極める中､巨椋池は江戸時代に入っても水害が多発し、増水時には遊水地としての役割を果たし、下流の商業都市大阪を守る受難の歴史が続きます。

明治になって宇治川上流に南郷洗堰ができてから遊水地としての役割は必要がなくなりましたが、その後水質悪化などの影響によりマラリアが発生し、やがて干拓され現在に至っています。しかし最近の異常気象による洪水などの水害多発を受け、再度遊水地としての役割が見直されています。(石中英司)

日時：2024 年７月 14 日（日）10 時～16 時半
行程：
９：30　受付　さくらであい館イベント広場「淀」
10：00　さくらであい館発
10：15　巨椋池排水機場着　巨椋池まるごと格納庫
11：00　旧山田家住宅、大池神社
11：30　京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー着　　本館セミナー室で意見交換
12：00　昼食および巨椋池流域模型見学
12：30　宇治川オープンラボラトリー発
12：50　桃山御陵駐車場着　御陵前階段上から巨椋池流域を展望
13：20　桃山御陵発
13：50　天ケ瀬ダム着
14：10　天ケ瀬ダム発
14：40　西宇治公園
15：10　四季彩館着　木津川流れ橋
15：40　四季彩館発
16：00　さくらであい館着　ふりかえり
16：30　解散
主催：淀川愛好会、水辺に学ぶネットワーク、日本水防災普及センター
共催：琵琶湖・淀川流域圏連携交流会、３つのみずたまりプロジェクト
参加費：無料（昼食は各自持参）
定員：25 名
申込：７月１日（月）までに、メールで下記のいずれかへ。
連絡先：水辺に学ぶネットワーク　澤井健二
kenjisawai@mta.biglobe.ne.jp
琵琶湖・淀川流域圏連携交流会　丸井晶子
jimukyoku@hirakata-kankyou.net
（この催しは、近畿建設協会 2024 年度街づくり・地域づくり支援事業「巨椋池干拓地におけるグリーンインフラ機能を活かした地域づくりに向けての情報共有」の支援を受けています。）

八幡の背割堤とグリーンインフラ 水辺の生き物探検隊

日時：2024 年７月 21 日（日）10 時～14 時
場所：木津川（御幸橋）周辺
主催：淀川河川公園管理センター
協力：琵琶湖・淀川流域圏連携交流会ほか

水辺の匠　E ボート乗船体験

日時：2024 年７月 21 日（日）10 時～16 時
場所：ウォーターステーション琵琶の前の瀬田川
主催：水辺に学ぶネットワーク、摂南大学 OB・OG、Biwacompass
後援：ウォーターステーション琵琶の会、琵琶湖河川事務所、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会

淀川まるごと体験会

日時：2024 年９月８日（日）９時～11 時 30 分
場所：淀川河川公園・点野地区
主催：淀川まるごと体験会実行委員会
内容：E ボート、カヌー、堤防決壊モデル実験、水中歩行体験、防災コーナーなど

〈 学生の窓　26 〉

芥川の遡上調査

田中亮太朗

私は生物に興味があり、川の生態系を知りたいと思い摂南大学・石田裕子教授の研究室に入りました。
私の卒業研究の内容は、芥川のアユの遡上調査です。

具体的な内容は、芥川の魚道に網をしかけて、1 時間に 1 回引き上げてかかった魚を記録するというものです。しかけた網にはアユ以外の魚もかかり、オイカワやカワムツなどがかかります。

初めは、とれた魚の種類などなにも分からない状態でしたが、調査を重ねるうちに魚の特徴や種類を覚えてきました。

この調査をはじめて、もっと生き物に興味をもち、色々な場所の生き物も見てみたくなりました。

（摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ 4 年生）

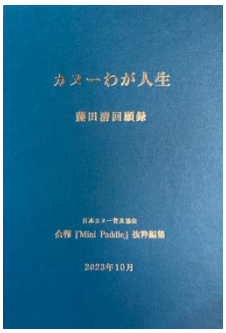
遡上調査の様子

調査で網にかかったアユ（13 ㎝）

書籍紹介

カヌーわが人生 藤田清回顧録

発行年：2023 年 10 月 7 日
著者：藤田清
編集：澤井健二・山根敬三



著者の恩師で「遊びの意識改革」を提唱・推進された故・高木公三郎博士（京都大学名誉教授、日本カヌー普及協会元会長）と、その志実現のため「遊びカヌーの実践と普及」に心血を注がれた藤田清氏（藤田カヌー創業者）との貴重な足跡を刻む一里塚になればと編集されたものです。非売品ですが、国立国会図書館に寄贈されています。［総 151 頁］

水辺に学ぶ～人と自然の共生～　澤井健二著述集

発行年：2023 年 9 月 19 日
著者：澤井健二
編集：山根敬三・澤井健二

著者が 50 年間にわたって行ってきた研究、教育、社会貢献活動における多様な記録資料等と原稿 182 編を取りまとめたもので、活動の経緯が詳しく論じられています。中表紙写真は京都市北区の賀茂川北大路橋上流。非売品ですが、国立国会図書館、及び摂南大学図書館（帯出可）に寄贈されています。［総 707 頁］（電子版をご希望の方は、著者にご相談下さい。）

編集後記

ヨドリックニュースが発行されて、26 年間という歴史あるなか、昨年度に引き続き、淀川愛好会の副会長 綾史郎氏が本年度の河川功労者に選ばれ受賞されました。綾史郎氏は大阪工業大学の教授を永年勤められ、城北ワンドの外来駆除や鵜殿ヨシ原の再生事業に努力されてきたのです。

先日、大川クリーン活動の折、大阪ふれあいの水辺で、河合先生と協働で投網にもご協力していただきました。

「水辺に学ぶ」の著者である澤井健二相談役は、表紙の写真にある美しい風土で少年時代を過ごされたそうです。

編集長 岡﨑善久（岡﨑善久建築設計事務所）

淀川愛好会事務局：〒572-8508　寝屋川市池田中町17-8　摂南大学理工学部都市環境工学科　石田研究室内
TEL/FAX：072-839-9125
HP：https://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/　E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp